

タウンミーティング議事要約

テーマ： シンクロシティ～あるいは、すでに起きた未来～

日時： 平成30年11月18日（日）10時～11時40分

場所： 千葉商科大学 1号館 1102 教室

参加者： 約40名

<1>シンクロシティの概念

参加者：

シンクロシティの語源がどういうものなのか。いつから出た言葉なのか。

市長：

シンクロシティ (synchronicity) は、1950年代にユングが提唱した概念で、偶然の一致、予知、予見などを指す。

<2>シンクロシティの現実化

参加者：

市の方針には ICT などの言葉が並ぶが、実行段階になると、このような言葉が消えてしまう傾向にあると感じる。今回、シンクロシティという概念についてお話をいただいたので、施策に反映させていただきたい。

市長：

私は今年4月に着任以来、オープンイノベーションということを申し上げている。2年後の新庁舎竣工、そしてそれ以降の市川市を考えるうえで、シンクロシティの概念をもって、施策を進めていきたい。

<3>官民協働について

参加者：

以前に比べると、市川市は、他自治体に遅れをとっているように感じる。このことから、今後の市政運営においては、より官民協働が必要になるのではないかと。

市長：

現在、国府台コンソーシアム、大学コンソーシアム市川が動いている。また、大学、企業、NPOなどと、様々な協定を結んでいる。

これらの取り組みにより、市川市に先端的な知見が集まり、そして市川市で新しい物事が起こる、という循環を生みたいと考えている。

< 4 >シンクロシティと個別の施策等について

参加者：

シンクロシティが個別の施策等とどう関わっていくのか。

市長：

○エネルギー政策について

エネルギーの地産地消に向け、現在、様々な施策を検討している。エネルギー関係のみならず、市川市から新たなビジネスが生み出される、市川市がイノベーションハブになることを目指している。

○道路行政について

テクノロジーによって、道路についての不便が解決されることを目指している。

例えば、これまでは道路の陥没、ひび割れなどについては、市役所の担当課に電話をして補修を要望していたところ、今後は、補修を依頼する箇所の画像を LINE で送ることで、補修の要望をすることが可能になると考えている。

○今後の窓口について

ワンスオンリーポリシーの考えに基づき、市民の皆さんにとってご負担にならないような窓口のあり方を検討している。

このことにより、市役所が単に行政手続きにくる場ではなく、市民の皆さんの積極的な市民生活の場になれるのではないかと考えている。

○人件費について

窓口のあり方をはじめ、行政全般が、テクノロジーによって効率化されていくことで、職員のあり方も変わっていくだろうと思う。皆さんから人件費をいただいていることを忘れず、そのような未来が創造できるよう、努力を重ねていきたいと考えている。